

## 2-2. 生成A I 利活用

### 2-2-1 事業実施結果総括

#### 良かった点

- 生成A Iの進化速度と業務改善への影響についての認識が深まり、業務での活用の必要性に対する理解と、積極的に活用するという意欲向上につながった。
- 企画立案や計画策定、資料作成といった時間を要する業務に対し、生成A Iの活用により効率化や品質向上が期待できることが理解できた。
- 窓口対応や電話対応、文書要約など、日常的な業務プロセスにおいて生成A Iが具体的に活用可能であることを実感し、受講者が業務負荷軽減への明確なイメージを持つことができた。
- 日々の業務での非効率な点や属人化が、A I活用の視点を持つことで可視化され、業務プロセス全体を見直す契機となった。

#### 課題

- A Iに関する基礎的な知識が十分に浸透しておらず、職員間で理解度にばらつきが見られる。
- A I分野は日々急速に進展しており、職員が継続的に知識・スキルを学習する体制構築には一定の課題が残る。
- 自治体内における生成A I活用が限定的なため、全庁を対象とした組織的な利用促進に向けた働きかけが必要である。
- 講義を通して知識を得ることはできるが、業務全体へのA I活用の具体的なステップや運用方針の明確化、全庁的な導入に向けたロードマップ検討が必要である。

#### 今後の活動に関する示唆

- A Iに関する基礎知識の底上げを図るため、全職員を対象とした研修やeラーニングを活用した学習機会の検討が必要である。
- A I分野の最新動向を定期的に把握できるよう、職員同士で学び合う機会といった継続学習の仕組みや制度設計が望まれる。(定期研修・交流会・勉強会・eラーニングなど)
- 生成A I活用を促進するため、活用事例の収集やモデル自治体での導入事例の学習などを通じ、活用に向けたガイドラインの整備など、利用環境構築に関する継続的な活動支援が望まれる。

## 2-2. 生成AI利活用

### 2-2-2 成果

#### 実施結果サマリ

事業	対象	開催内容	開催日	受講者数	理解度	役立ち度	習得度	満足度
①文章・画像・動画・音声生成AI利活用講義	全職員 (生成AIを初めて学ぶ方・トレンドを知りたい方)	講義	5月21日(水)	80人	92%	87%	57%	95%
②業務効率化体感ワークショップ	全職員 (生成AIを業務で活用したいと考える方)	ワークショップ(第1回)	9月4日(木)	21人	100%	95%	85%	100%
		ワークショップ(第2回)	9月29日(月)	14人	100%	100%	93%	100%

#### 各回の実施結果

- 次ページから記載

## 2-2. 生成AI利活用

### ① 文章・画像・動画・音声生成AI利活用講義の概要

開催日	5月21日（水）	参加者	25自治体（全80人）
実施目的	進化する生成AIの概要・自治体活用事例・活用上の注意点を習得することで、実務での生成AI活用イメージをつかむことを目的とする。		

実施内容	1-1-3. 動画生成AIとは
<ol style="list-style-type: none"> <li>生成AIとは/生成AIの進化</li> <li>生成AIによる生産性の向上/品質の向上</li> <li>AI電話/AIチャットボット/RAGの活用事例</li> <li>エージェントAI/リアルタイムAI</li> <li>データセキュリティ対策</li> <li>誤情報/倫理的問題への対策</li> </ol>	<p>・動画生成AIは、画像やテキスト、音声データを基に短編映像を自動生成する技術です。自治体のプロモーションや説明動画を迅速に制作し、職員負担を軽減し、高度な情報発信に寄与します。</p>  <p>説明会のオープニング動画 施策のPR動画 観光名所の紹介動画 等々…</p> <p>(一例) 講義資料</p>

### 実施事項

#### 学びのポイント

- 文章・画像・動画・音声生成AIは「どのような仕組みで動き、何ができるか」「業務がどのように変わるか」「利用する上で何を注意しなければいけないか」「より効果的・効率的な活用方法は何か」を、講師によるデモンストレーションを通して習得する。

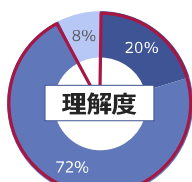
#### 好事例・気づき

- 窓口業務と電話業務を市職員で対応していることから、この2点において生成AIは大きく生かせるチャンスがあるのではと考えている。
- 文書要約やファクトチェックの方法などで役に立つと思う。
- 企画業務を効率的に進めるためには生成AIの活用が不可欠と考える。
- 講義内であった「ゲイン」の段階には至らないが、業務で時間を取られている資料作りの時間短縮やわかりやすい資料作りにはすぐ活用できると感じた。
- 計画の策定時に、草案の作成として使用したい。

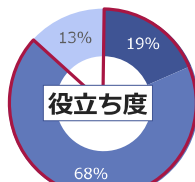
### 研修参加者へのアンケート結果（回答 54人）

<サマリ>「理解度」「役立ち度」「満足度」は高い一方、「習得度」については26%が「もっと勉強が必要」と回答。「まずは実際に活用してみて、傾向などをつかみたいと感じた」「実践したいが生成AIツールが多くてどれを利用すればいいのか分からない」といった回答が見られた。

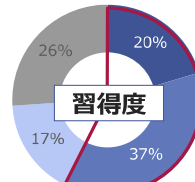
92%が「とても理解できた」「理解できた」と回答	87%が「とても役に立つ」「役に立つ」と回答	57%が「実践できる」「サポートがあれば実践できる」と回答	95%が「大いに満足」「満足」「概ね満足」と回答
--------------------------	------------------------	-------------------------------	--------------------------



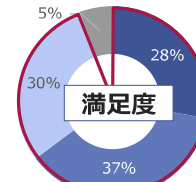
- とても理解できた
- 理解できた
- どちらでもない



- とても役に立つ
- 役に立つ
- どちらでもない



- 実践できる
- サポートがあれば実践できる
- どちらでもない
- もっと勉強が必要



- 大いに満足
- 満足
- 概ね満足
- あまり満足していない



9月開催の実戦形式で自治体の業務でどれくらい生成AIが機能できるのか検討していきたい。



講師の方の説明がとても分かりやすかった。9月のハンズオン研修も担当してくれるとのこと楽しみにしている。

## 2-2. 生成A I 利活用

### ② 業務効率化体感ワークショップ 基礎編の概要

開催日	9月4日(木)	参加者	13自治体(全21人)
実施目的	5月に実施した講義中心の生成A I 講座に対し、本講座では実際に生成A I を操作することで、その利便性を実感し、職場ですぐ活用できるようになることを目的とする。		

#### 実施内容

- ① プロンプト入力の基本体験
- ② 文章要約体験
- ③ アンケート分析体験
- ④ 議事録作成体験
- ⑤ RAGのデモ説明



講義の様子

#### 実施事項

##### 学びのポイント

- ・ 生成A I の概要と生成A I がもたらす社会や住民への影響を学ぶ。
- ・ プロンプト作成の要点を解説するとともに、文章要約、アンケート分析、議事録作成など、実際の業務を想定した生成A I の活用方法について、講師とともに演習を行い、職場での実践的な生成A I の活用イメージを習得する。

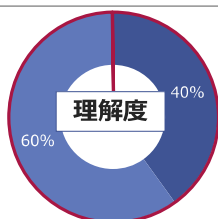
##### 好事例・気づき

- ・ 生成A I を活用しなければ時代に置いていかれるという危機感が芽生え、より活用の意識が高まった。
- ・ 今後、市政モニターアンケートの集計や来年度の担当業務の企画に活用する予定である。
- ・ 講師の説明は非常に示唆に富み、生成A I の進化スピードが想像以上であることを実感した。
- ・ これまで業務では生成A I を活用していなかったが、今回のような業務改善に直結する具体的な活用方法を知ることができ、感動した。

#### 研修参加者へのアンケート結果(回答 18人)

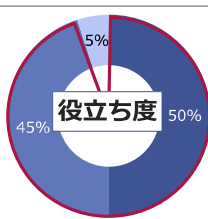
<サマリ> 「理解度」「役立ち度」「習得度」「満足度」は概ね高い水準にある。「業務活用したい」といった前向きな意見が複数寄せられた。

100%が「とても理解できた」「理解できた」と回答



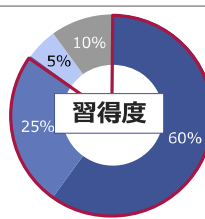
- とても理解できた
- 理解できた

95%が「とても役に立つ」「役に立つ」と回答



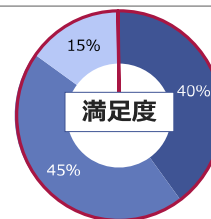
- とても役に立つ
- 役に立つ
- どちらでもない

85%が「実践できる」「サポートがあれば実践できる」と回答



- 実践できる
- サポートがあれば実践できる
- どちらでもない
- もっと勉強が必要

100%が「大いに満足」「満足」「概ね満足」と回答



- 大いに満足
- 満足
- 概ね満足



多くのツールを知ることができたため、なるべく早い段階で実際に触ってみたい。



市政モニターアンケートの集計作業に早速活用し、自由記述の分類がかなり効率化した。

## 2-2. 生成A I 利活用

### ② 業務効率化体感ワークショップ 応用編の概要

開催日	9月29日(月)	参加者	9自治体(全14人)
実施目的	生成A Iを使って実際の業務を想定した企画を策定する過程を体験することで、基礎編で学んだ業務効率化の先にある、実践的なアイデア出しの手法を学ぶことを目的とする。		

#### 実施内容

- ① 基礎編の復習：生成A Iとは
- ② ワークショップ1  
「地域の課題解決アイデア」
- ③ ワークショップ2  
「自治体のDX推進ロードマップ」



グループワークの様子  
(地域の課題解決アイデアについて)

#### 実施事項

##### 学びのポイント

- ・ 生成A Iで実現可能な業務領域を整理し、業務での活用方法を検討するためのフレームを学ぶ。
- ・ 「地域活性化・まちづくり企画」と「組織におけるDX推進のためのロードマップ策定」の2つのワークを通じて、実際の業務を想定した業務での生成A I活用を体験する。

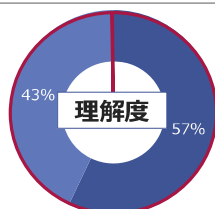
##### 好事例・気づき

- ・ A Iはあらゆる業務に活用できる可能性があると感じた。
- ・ A Iの活用は、生産性の向上につながると感じた。
- ・ 業務の中には改善が必要なものも多く見受けられるため、まずは身近な業務から着手し、スケジュールの立案などについてもA Iを活用しながら検討していきたい。
- ・ A Iを活用しつつ、人と人が情報共有しながらワークを進めることの難しさと同時に、楽しさも実感することができた。

#### 研修参加者へのアンケート結果(回答14人)

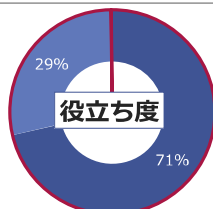
<サマリ> 「理解度」「役立ち度」「習得度」「満足度」は概ね高い水準にある。また、「業務に活用したい」といった前向きな意見が複数寄せられた。

100%が「とても理解できた」「理解できた」と回答



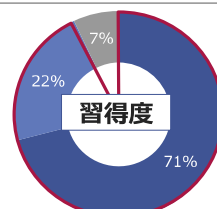
■ とても理解できた  
■ 理解できた

100%が「とても役に立つ」「役に立つ」と回答



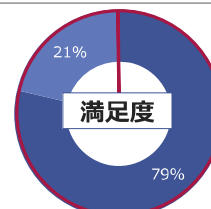
■ とても役に立つ  
■ 役に立つ

93%が「実践できる」「サポートがあれば実践できる」と回答



■ 実践できる  
■ サポートがあれば実践できる  
■ もっと勉強が必要

100%が「大いに満足」「満足」と回答



■ 大いに満足  
■ 満足



プログラムや文書の作成、データ分析などに有効だと感じた。



最先端の情報を聞くことができ、有意義だった。